

平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

特定非営利活動法人クレブスサポート

1、事業の成果

○クレブスサポートの3つの目標

がんによる罹患と死亡を減らすため、設立当初から3つの目標を掲げています。「がんにならない」「がんには負けない」「がんを伝える」の3つです。

本年度事業として、「がんにならない」は、子どもたちにごんを教える「がん教育事業」、「がんには負けない」は、患者・家族に情報交換と交流の場を提供する「がんサロン事業」、「がんを伝える」は、がんを乗り越えた人たちの実名の記録となる「がん体験記発刊事業」に取り組みました。

【がん教育】

まず子どもたちにごんを教える人材の育成から始め、がん教育支援員養成講座を6月から8月まで計6回開き、修了者20人を確保しました。修了後もスキルを高めるため自主レーニングを続け、29年12月、佐賀市立赤松小学校にごん教育支援員3人を派遣、4年生3クラスで教壇に立ちました。

1時限45分を医師とがん体験者が20分間ずつ担当し、最後の5分間を担当教師による振り返りの時間としました。佐賀県医療センター好生館の協力で派遣してもらった男女2人の医師には、外見から医師と分かるようにわざわざ白衣を着てもらいました。がん体験者には、がんは治る時代になったこと、がんになっても治療によって意欲的な人生を送ることができること、命の大切さなどについて話してもらいました。

子どもたちの反応は上々でした。「がんは早く見つければ怖くない」「たばこの害はすごい。お父さんにたばこをやめてもらう」「大人になったら検診を受ける」などと感想文に書いていました。

【がんサロン】

県内4カ所まで延べ38回開催しました。来場者は238人(1回平均6.2人)、相談件数は118件(1回平均3.1件)でした。

4カ所は佐賀市のがんサロン「ぴあ」、同じくお寺がんサロン「浄照寺」、小城がんサロン「ひらまつ」、上峰がんサロン「とっころ〜と」で、「ぴあ」は30年3月から会場を佐賀玉屋に移転、がんサロン「Tamaya」と改名しました。「浄照寺」は30年2月に新設しました。

各がんサロンには、相談員(看護師経験者)2人、ピアサポーター2人、事務局スタッフ2人を配置、お茶を飲みながら気軽に語り合う雰囲気醸成し、療養上の不安や生活の悩みなどについて相談に応じる相談支援を行いました。

がんサロンの中でも中心的存在の「ぴあ」では、佐賀大学医学部や好生館の協力を得て医師を招いてのミニ学習会や、患者の頭部脱毛対策のためウィッグの手入れやクリーニングの仕方を学ぶイベント等を開催しました。上峰がんサロンでは、一般町民を対象に緩和ケア講演会を開催しました。

患者・家族が求める情報や支援の第1位は「体験談や同病者との交流」という調査結果があるように、患者・家族は街中のがんサロンを気軽に訪ねることによって救われています。「がんで悩むのは自分だけじゃないんだ」「家族にも言えないグチを聞いてもらった」などの感謝の言葉が寄せられました。

相談内容の主なものは下記のとおり。

(乳がん患者)

- ・抗がん剤による脱毛対策を教えてください
- ・抗がん剤によるしびれ、違和感など末梢神経障害で悩んでいる
- ・リンパ浮腫による症状を改善したい

(大腸がん患者)

- ・下痢、便失禁が悩み
- ・便秘が悩み
- ・治療後の体力低下、体力回復が関心事

(胃がん患者)

- ・胃切除により食事が進まない
- ・治療後の体重低下が深刻
- ・抗がん剤による食欲不振と味覚異常に悩んでいる

(肺がん患者)

- ・治療後の体力低下や体力回復の方法を知りたい
- ・抗がん剤による外見の変化(爪が黒くなる、皮膚症状)
- ・普通の生活ができなくてつらい

(子宮がん患者)

- ・リンパ浮腫で外出、歩行、仕事、家事、運動が困難
- ・排尿障害に悩んでいる
- ・抗がん剤による脱毛(いいウィッグがない)

(全般)

- ・男性が行きやすいがんサロンがほしい(例えば前立腺がんサロン)
- ・若い女性を対象とした乳がんサロンはないか
- ・主治医の態度が悪い
- ・セカンドオピニオンはどこに行けばいいか
- ・いつから仕事に復帰できるか
- ・配偶者への影響(収入減、離婚の危機)
- ・子どもへの伝え方
- ・仕事を続ける自信がない
- ・職場で配置転換された
- ・再就職ができるかどうか

【がん体験記の発刊準備】

がん患者・家族に対する偏見や誤解は根強くあり、がんであることを隠しながら仕事や生活をしている人が少なくありません。その一方で自らのがん体験を勇気をもって公表し、がんという病と正面から向き合い、生と死のはざままで輝かしい人生を送っている人たちがいます。こうした人達を応援するとともに、がんを乗り越えた人たちの実名の記録となるがん体験記の発刊を目指しています。29年度は準備期間とし原稿募集を行い、予定の半数の15編を集めることができました。30年度中の発刊を計画しています。

○ふるさと納税による恩恵

29年4月、当法人が佐賀県のふるさと寄付交付団体に指定され、ふるさと納税サイト「ふるさとチョイス」に公開されました。その結果、全国からクレブスサポートを指定したふるさと納税が相次ぎました。県に寄せられた寄付の95%が当該団体に交付される仕組みとなっており、29年度は714万余円が交付されました。うち459万余円が返礼品の代金として支払いましたので、事業費に回せる資金は255万余円となりました。

これまで慢性的な資金不足により事業規模も限られていましたが、ふるさと交付金によって一挙に解決し、これまで完全ボランティアに頼っていたがんサロン相談員らスタッフ陣にも一定の報酬を支給するなど、事業拡大と充実につながりました。一方で規模拡大はふるさと納税返礼品や個人情報管理など事務量の増大につながり、新たな悩みを抱えているのが現状です。ふるさと納税の隆盛がこの先どこまで続くのか、見極めが難しいのも不安要因の一つとなっています。

2、事業の実施に関する事項

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額 単位円
普及啓発					患者及び その家族等	6,800,388
がんサロン	<p>○がんサロン「ぴあ」 毎月第2日曜日 30年3月から佐賀玉屋に移転、「Tamaya」に改名</p> <p>○お寺がんサロン「浄照寺」 30年2月から毎月第1日曜日</p> <p>○小城がんサロン「ひらまつ」 毎月第3木曜日</p> <p>○上峰がんサロン「とっころ〜と」 毎月第4日曜日</p>	通年	<p>佐賀市 木原1丁目</p> <p>佐賀市 高木町</p> <p>小城市 ひらまつ 病院</p> <p>上峰町</p>	<p>毎回6 人</p> <p>同</p> <p>同</p> <p>同</p>	<p>120人</p> <p>10人</p> <p>48人</p> <p>60人</p>	
ミニ学習会・イベント	<p>○テーマ「がんとともに生きる」講師；中川原章・佐賀県医療センター好生館理事長</p> <p>○テーマ「メイクとウィッグ講習会」講師；佐賀市荒川国子・ビューテック二葉社長</p> <p>○テーマ「ネバーギブアップ！肝臓がんの治療」講師；秋山巧・佐賀大学医学部助教</p> <p>○テーマ「乳がんってナーニ？」講師；小池健太・佐賀市小池クリニック院長</p> <p>○テーマ「がんと生きるわたし流」講師；松尾俱子・NPO 法人がんと学ぶ青葉の会代表</p> <p>○テーマ「タオル帽子づくり講習会」講師；豊増三枝子・鳥栖タオル帽子の会代表</p> <p>○テーマ「リンパのセルフマッサージ」講師；福山美香・佐賀市チャンドリカ代表</p> <p>○テーマ「在宅でのがん治療」講師；矢ヶ部伸也・在宅ネット佐賀事務局長</p> <p>○テーマ「がんを知り、がんと向き合う〜治療と療養を支える緩和ケア」講師；小杉寿文・好生館緩和ケア部長</p>	<p>5月4日</p> <p>6月11日</p> <p>7月9日</p> <p>8月13日</p> <p>9月10日</p> <p>10月8日</p> <p>11月12日</p> <p>2月11日</p> <p>2月10日</p>	<p>佐賀市「ぴあ」</p> <p>同</p> <p>同</p> <p>同</p> <p>同</p> <p>同</p> <p>同</p> <p>同</p> <p>上峰町民センター</p>	<p>5人</p>	<p>20人</p> <p>19人</p> <p>18人</p> <p>20人</p> <p>15人</p> <p>15人</p> <p>10人</p> <p>20人</p> <p>50人</p>	
ふるさと納税	<p>○「ふるさとチョイス」(株式会社トラストバンク)を利用した寄付集めの広報活動を強化するため、公式ホームページの画像や造り付けを更新するとともにパンフレットなど印刷物を製作した。この結果、寄付提供とともに当法人の活動が全国に知られるようになった。返礼品の購入によって佐賀県特産品の育成と発展に貢献することができた。</p>	通年	全国	2人	100,000人	

人材育成		患者及び その家族等			405,075
がん教育	<p>○患者・家族を対象に小学生にがんについて教えるがん教育支援員を公募。定員の20人を確保した。</p> <p>○がん教育支援員養成講座を下記の内容で実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開講式「学校現場からの声」講師；南里美紀江・多久市西溪校副校長ほか。 ・「がんサロンから見えてくるもの」講師；県内4サロン代表。 ・「がんの基礎知識集中講座」講師；好生館の5人の医師（肺がん、胃がん、大腸がん、前立腺癌、子宮がん） ・同（肝臓がん、乳がん、すい臓がん、小児がん、緩和ケア） ・「話し方、伝え方トレーニング」講師；森永秀毅ほか ・模擬授業、閉講式（修了書授与） <p>○がん教育支援員を佐賀市赤松小学校に派遣、4年生3クラスで好生館の医師とともにがん教育授業を行った。</p> <p>○唐津東高校のがん教育公開講座にがん体験者6人を派遣、1年生6クラスで同時にがん体験談を発表した。</p>	5月	佐賀県内	4人	1000人
		6月10日	佐賀市商エビル	4人	20人
		6月24日	アバンセ	4人	20人
		7月15日	好生館	4人	20人
		7月22日	好生館	4人	20人
		8月5日	アバンセ	4人	20人
		8月12日	好生館	4人	20人
		12月18日 ～20日	佐賀市	3人	120人
12月4日	唐津市	4人	240人		
学術振興		患者及び その家族等			73,264
がん体験記 発刊	<p>○がんを乗り越えた人たちの実名の記録となるがん体験記「がんとともに生きる佐賀」（仮題）の発刊を計画、公募を開始した。本年度中に予定の半数の15編が集まった。30年度中に上梓する予定。</p>	通年	佐賀県内	2人	1000人
情報発信		患者及び その家族等			135,972
広報	<p>○当法人活動の周知と普及を図るため、「がんサロン」や「がん教育」などの事前告知を地元新聞社などにお願ひし、その活動報告をリアルタイムで Facebook などに投稿した。活動の新聞掲載は佐賀新聞17回、読売新聞2回、西日本新聞、朝日新聞各1回、Facebook 掲載21回、リーチ4000人。</p>	通年	全国	1人	100,000人